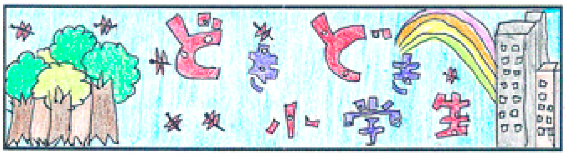
（第三種郵便物認可）
河北新報　第二朝刊
平成２１年（2009年）１０月１４日（水曜日） ©河北新報社 2009

NIE特集
Newspaper In Education



立町小

学校名　仙台市立立町小学校
所在地　仙台市青葉区立町８の１
電　話　022（222）4078
校　長　菅原　耕一
児　童　244人

西公園の歴史を探る！

空襲 命救った防空壕

知り隊

私たちの立町小の西側には、「西公園」があります。広瀬川に沿って広がり、自然豊かです。写生に行ったり、家族や友達と遊びに行ったりします。戦争で焼ける前まで、立町小もこの中にありました。私たちは、西公園の歴史やみんなが訪れる理由を知りたいと思い、公園内にある桜岡大神宮の神主・坂本寿郎さんにお話をうかがいました。

人気高かった動物園

「ここは、もとは仙台藩の上級家臣の家や『桜の馬場』があった場所だったんだよ」と坂本さんは説明してくれました。桜の馬場とは、桜の木のある馬の訓練所の意味です。公園になったのは明治8（1875）年で、珍しい木や石を集め、茶店もできました。

西公園は、正式には「桜ケ岡公園」と言います。桜の馬場が名前の由来のようです。その後、仙台市の東側に榴岡公園ができたので、桜ケ岡公園は仙台の西側にある公園ということで「西公園」と呼ばれるようになりました。園内には支倉常長の顕彰碑をはじめ、社会に貢献した人たちの石碑が数多くあり、深い歴史を感じます。

昭和初期には、公園に動物園や公会堂がありました。「当時は近くに動物園がなかったので大変な人気だった」と言い、公会堂では博覧会や選挙の開票、戦争の集会なども行われました。そして戦争で空襲の時は、公園にある防空壕に大勢の人々が避難しました。

坂本さんに取材する＝桜岡大神宮前

現在は、お花見や花火大会などのイベント、神社の例祭などが公園を中心に行われ、仙台市民や宮城県民のいこいの場として、昔と同じように重要な役目を果たしています。

西公園の通りには、大正15（1926）年から約50年間、市電が通っていました。お客さんは、道路中央にあった安全地帯から乗り降りしました。今では想像もできません。車が増えたためですが、市電は二酸化炭素を出さない環境に優しい乗り物だから、無くなったことが残念です。

桜ケ岡公園では今、5年後の開通を目指して地下鉄工事が行われています。坂本さんは「地下鉄が通れば便利になる。より多くの人にこの公園を利用してほしい」と話していました。

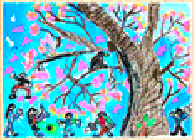
◇　◇

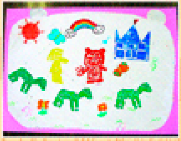
桜ケ岡公園には、昔からたくさんの人を守り、支えられてきた歴史があります。みんなの宝物であるこの公園を私たちの手で大切にし、これからも多くの人に親しまれるようにしていきたいと思います。

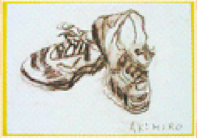
文・後藤萌、関佳悦（6年）

うきうきキャンバス

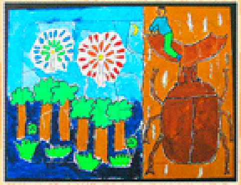
おしゃれなバッグ　1年・橋本寧花


みんなの春
2年・石山皓貴


主人公がみたゆめ
3年・後藤もも恵



マイ・シューズ　6年・岩山晃大


花火を見るぼく
5年・後藤優吾

牛乳パックで作ったいす　4年・中村光宏

もみじのお皿
5年・大久保清花

言い隊

■ 縦割り活動で仲良く ■

立町小では、全校児童が地区ごとに分かれた縦割り活動があります。6年生が中心になって休み時間に遊んだり、そのグループで遠足に行ったりします。

低学年は高学年の話をよく聞いていたし、高学年は低・中学年にとても優しくしていました。学年に関係なく仲良く遊ぶ姿がとてもいいなあと思いました。私は、学年が違っても相手のことを考えて、仲良くなりたいと思う心があれば、だれとでも仲良くなれると思います。

これから中学生になり、大人へとなっていくけれども、縦割り活動で得た経験を忘れないで、いろいろな人と仲良くなりたいと思っています。

（6年・渡辺愛梨）

■ あいさつ 心を込めて ■

給食の下膳をする時、全校のみんなが必ず言う言葉があります。それは「ごちそうさまでした」のあいさつです。給食員さんを見てきちんとあいさつします。

あいさつをするのは、本当に当たり前のことだけれど、心を込めて言うと、自分の気持ちを相手に伝えることができます。そんなあいさつは、した方もされた方も、いい気持ちになります。

低学年の時は、先生に言われてしたあいさつだったけれど、今では自然に言うことができます。立町小のみんなにも、この伝統を続けてほしいと思います。そして私も、いろいろなあいさつを、自然に心を込めてできるようになりたいと思います。

（6年・千葉恵）

教え隊

朝のごみ拾い活動

落ち葉、吸いがら一掃

歩道橋のごみ拾いをする6年生の児童たち

毎週木曜日の朝に、学校の周りのごみ拾い活動を全校で行っています。6年生は主に西公園の周りや歩道橋を担当していますが、特に多いのは木の枝や葉、たばこの吸いがらやチラシなどです。

この町を少しでもきれいにしようという気持ちで活動していますが、全校で拾ったごみを合わせると大きいごみ箱1個にもなり、その様子を見ると、みんなでよく頑張ったなあとすっきりします。

ぼくたちの町をきれいに保つために、この活動を続けていきたいと思います。

文・伊藤寛将、岸谷春輝（6年）

編集後記

西公園について記事にすることが決まった時、うまくまとめられるか心配でした。けれども、取材を始めると、それほど難しくは感じませんでした。それは、公園の中にある神社の神主さんが分かりやすく話してくださったり、いつもよりじっくりと公園を見学したりしたことが楽しかったからです。

この新聞を多くの人に読んでもらい、立町小と西公園について知ってもらいたいです。そして、私たちの町に大勢の人が訪れてほしいと思います。

新聞作りを通して、私たちは自分に自信を持つことができ、とてもよい経験になりました。

〈編集委員〉関佳悦、後藤萌、岸谷春輝、伊藤寛将、千葉恵、渡辺愛梨（6年）
題字デザイン　上村有香理、大森花蓮（6年）
〈指導教諭〉山沢一郎、佐藤ゆり子